

【ワーク 13 - 10】「なぜ人はうわさをするのか？」解説

うわさへの上手な対応の仕方

1. うわさされた本人の対応

そのうわさは真実ではないことを、落ち着いたトーンで（興奮したり泣いたりしないで）相手に伝えるようにします。いじめの加害者はリアクションを楽しみたいので、そのうわさにふりまわされなくて平然としているところを示すことができるように、こころのなかでコントロールするようにします。もしくは、Let it slide をして、最初から関わらないようにすることも有効です。

2. うわさを聞いた人の対応

うわさを広める場合、最初に言い出した人は悪意があっても、それを聞いて広めている人の中には悪意はない人も多く、言われている本人のこともあまりよく知らない場合などは特に、言われてどんな気持ちになっているかを思いやる気持ちは湧きにくい場合があります。しかし、悪意なく広めたとしても、それによって広められた人の名誉が傷ついたり、不利益をこうむる可能性が高く、辛い思いをさせることになるのですから、うわさを広めることはいじめであるといえるでしょう。いじめに加担しないためには、うわさを聞いてもそれを他の人に伝えないことが大切です。

子どもはこのことに気づきにくいので、皆さんが教師等になったら、児童生徒にもワーク 13 - 10 の内容を考えさせて、うわさを止めることの大切さに気づかせて欲しいと思います。